

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572308690
法人名	湯の越の里株式会社
事業所名	グループホーム 湯の越の家
所在地	〒018-1851 秋田県南秋田郡五城目町内川浅見内後田 125-5 (電話) 018-854-2470
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年11月27日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算13.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78歳	最低	69歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉内科医院 笹尾医院 わしや歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山間の高台に位置しており、周囲は山林で眺望も良い。利用者はホーム内にいながら豊かな自然環境を満喫している。また、敷地内には温泉が湧き出ており、利用者は好みに応じて温泉入浴を楽しむ事ができる。
職員は自ら考えた独自の理念の下、利用者の自立を重視した介護に心掛けている。
ホームは集落から離れており地域住民が気軽に訪れることはできないことから、ホーム側から積極的に地域を訪れ、行事に参加したり、地域住民との交流の機会を設けるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回調査で挙げられた主な課題は、地域とのつきあい、職員の育成であった。地域とのつきあいは、町内会に入会して地域の行事や催し物にできるだけ参加し、地域住民との交流を活発に行っている。また、職員の育成については、研修や講演会等に参加して資料等を回覧するように努めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価に関しては会議等の中で全職員が評価の意義を理解して携わっている。外部評価や同業者との交流会での評価内容を真摯に受け止めてその後の業務改善に活かしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催され、家族、民生委員、社会福祉協議会及び地域包括支援センターの職員が出席し、入退居者の報告、現利用者の認定更新に係わる事、地域の一人暮らしの方々の情報等を共有している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月、お便り、面会簿、出納帳の控えを家族に送付しており、通院時の状況も随時電話で伝えている。また、家族の面会時に気軽に苦情や意見を聞くように努め、運営改善に活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域にお便りを配布して近況を伝えている。町内会に加入して文化祭や学校の行事に参加し、地域との交流を深めている。また、地域のボランティアがホームを訪れ、踊りや歌、人形劇等を披露して頂いている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当初からの理念を実情に合わせて更新し、職員全員で考えた独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内随所に掲示して目に付きやすいようにしている。また、毎日の朝礼にて全職員で読み上げており浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域にお便りを配布してホームへの理解を深めている。また、町内会に加入してできるだけ地域の行事等に参加するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を活かして常に改善するように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に一度、家族、社会福祉協議会・地域包括支援センター職員、民生委員等が参加して運営推進会議を実施している。ホームの現況を伝えたり、地域の独り暮らしの方の情報を共有している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場と連携して地域に係わる情報交換をしている。また、地域密着型として町村の役場同士で情報を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、お便り、面会簿、出納帳の控えを送付している。医療機関への通院時の状況や面会状況等は随時電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見を受け付ける箱が設置されているが、ほとんどの家族は直接意見を言い、気軽に話せるような信頼関係を築いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対しては担当制を設けて深く関わるように努めている。併設事業所との異動は必要最低限にし、離職等による利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会や研修等に参加するようにしており、終了後は参加資料を全職員で回覧して知識の共有に努めている。	○	中堅職員だけでなく新任職員も積極的に研修に参加できるような、研修計画の作成に取り組むことを希望する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム同士の交流会に参加し、互いに情報交換を行ってそれぞれの事業所の改善に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの概要を本人及び家族に説明している。その後、納得した上で入居して頂き、ホームの生活に慣れるまではこまめに家族と連絡を取り合っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意向を確認しながら、掃除や洗濯物たたみを一緒に行っている。話をしながら時には人生の先輩としての助言を頂いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活を基本としながらも、利用者一人ひとりの個性を把握して、本人の生活リズムが継続できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や職員の意見はもちろんのこと、利用者本人と話をすることを大切にし、困っている事や希望等を聞きだして介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しのほか、利用者の日常生活動作が低下したり、入院等で状態が変化した場合、担当介護員、介護支援専門員、管理者で話し合い、現状に見合った介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の利用者と交流したり、ホームの車両を利用して通院するなど、事業所の多機能性を活かし柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の医療機関や歯科医が定期的に往診に訪れている。また、本人が希望するかかりつけ医がいる場合は、希望する医療機関を受診できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	救急病院と医療が連携している。緊急時や重度化には、全職員方針を同じくして対応ができる体制である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者全員にまんべんなく声を掛けるように努めており、本人の誇りを重視した対応に心掛けている。また、居室は内側から鍵かかかり、プライバシーを重視する利用者に配慮している。緊急時は、外側から解錠できるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを重視して、その人らしい生き生きとした暮らしができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れて、地域の食材を利用した季節感のある献立を考えている。利用者はその能力に応じて、準備や片づけを行っている。また、手作りのおやつを提供して利用者から好評を得ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	併設事業所に温泉入浴場があり、利用者の健康状態を把握した上で、希望に沿って入浴することができる。また、風呂に入りたがらない利用者に対しては足浴を行うなど、一人ひとりの要望に沿って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の際の盛り付け、テーブル拭き、食後の後片付け、草むしり等、利用者の生活歴や経験を活かしながら日々を過ごせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ホーム周辺を散歩して気分転換を図っている。また、毎月行事計画に沿った外出を行ったり、個々の希望に応じてドライブや買い物に出かけている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中、玄関には鍵を掛けていないが、見守り重視のため各棟の出入り口を一時的に施錠する事がある。	○	できるだけ鍵を掛けず、利用者が自由にのびのびと過ごせるような生活環境を作り上げていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、地域住民の協力を得て避難訓練や通報訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考慮して作られており、毎日個々の利用者の食事摂取量や水分摂取量を記録して、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに暖簾を替えたり花を飾るなどして季節感を演出している。ホーム内は空調が完備され、脱臭・空気清浄機を設置して心地よい空間になるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、ダンス、クローゼットが備え付けている。それ以外に希望の家具や寝具があれば自由に持ち込め、利用者が自宅同様に居心地良い居室になるように努めている。		

※ は、重点項目。